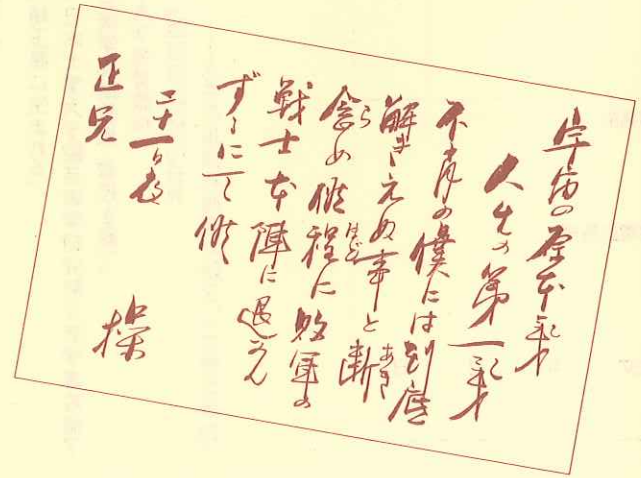




◆華嚴の滝投身自殺事件

明治三六（一九〇三年）五月三日、十六歳の二高生・藤村操が、日光華嚴の滝に投身自殺した事件。操は「人生不可解」の恨みを抱いて死を決したという辞世の一文「厳頭之感」を滝近くの木に書き残していた。
 一高のクラスでも最年少だった紅顔の美少年の自殺は、哲学的な意味をはらんでいると考えられ、当時の若者への影響は大きく、追隨して自殺を図るものも多数生じた。夏目漱石は藤村操の英語の教師であり、操の同級に茅野蕭々・野上豊二郎・堀切善次郎・安倍能成・小宮豊隆ら後年文学界・哲学界などで活躍した青年たちがいたが、彼らへの衝撃も大きかった。事件は芝居や小説にもなるなど、社会的・文化的影響が多大であった。



●表示価格はすべて税別。

●関連図書のご案内

高橋 正 著
西園寺公望と明治の文人たち

風流宰相と称された政治家・西園寺公望は、一九〇七年、私邸に当代の代表的文士を招き、それが雨声会に発展する——異色の政治家と文学者たちの交流から一九〇〇年代の文学的状况を考察する。
 四六判 上製 256ページ／定価●本体2、800円＋税 ISBN4-8350-3120-2

江口きち 著 島本 融 編

塔影詩社蔵 江口きち資料集成

生活感のある、気迫こもった歌で河井醉茗・島本久恵主宰の『女性時代』誌で異色の歌人と呼ばれた短命の女性歌人・江口きち。女性時代社が改組した塔影詩社に残された日記・歌集等の復刻と著作集。
 B5判 上製 函入 336ページ／定価●本体4、800円＋税 ISBN4-8350-3119-9

不二出版

T113・00023
 東京都文京区向丘1-2-12
 電話03・3812・4433
 ファックス03・3812・4464
 振替001600・294084

検証 藤村操

華嚴の滝投身自殺事件

「人生不可解」の辞を残して

十六歳の二高生・藤村操は、なぜ死ななければならなかったか

二十世紀初頭の社会に文学に大きな波紋を与えたひとりの青年の自死を考証する決定版！



没後百年記念

不二出版

平岩昭三 著

定価●本体一、八〇〇円＋税

四六判・上製・カバー装・二八〇ページ 二〇〇三年五月刊

当時第一高等学校一年二組に在籍していた藤村操が、人生不可解の悩みを抱いて日光華嚴の滝に身を投じたのは、明治三十六（一九〇三）年五月二十二日のこと。時に操はまだ満十六歳十カ月、眉目秀麗にして紅顔の美少年であった。

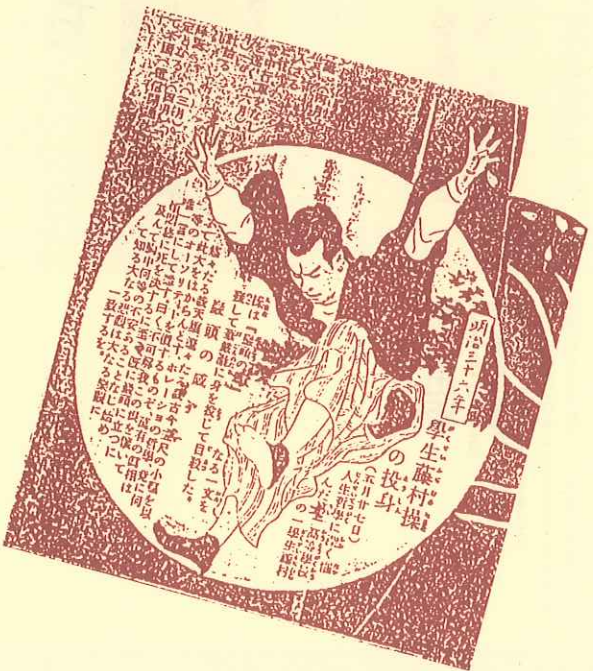
この事件の第一報は黒岩涙香が主宰していた万朝報の五月二十六日付で、自ら現地地で捜索に当たった叔父那珂通世博士の哀悼文と共に報じられた。この文中で操が滝の落ち口近くの檜の大樹に書き残した「巖頭之感」が初めて世間に紹介され、当時の人々、とりわけ若者達に大きな衝撃を与えたのである。事件の概要を知るために、いささか長きにわたるが、「那珂博士の甥華嚴の瀑に死す」と題した同日付の記事をそのまま引用しておく。

自転車博士の異名あるばかり斯道に嗜み深き高等師範学校教授那珂通世文学博士の甥に方る藤村操（十八）といふは第一高等学校の生徒にて同学中俊秀の聞えある青年なりしが去る二十日家出を

検証 藤村操 華嚴の滝投身自殺事件

平岩昭三 著

- 第二章——藤村操華嚴の滝に投身
- 第二章——藤村操の失恋説をめぐって
- 第三章——藤村操の生存説をめぐって
- 第四章——藤村操投瀑事件余聞
- 第五章——伊井蓉峰作「華嚴滝」考
- 第六章——藤村操と折蘆魚住影雄
- 第七章——藤村操関係資料の紹介
- 第八章——藤村操投瀑事件に関する
文献・資料目録



●著者紹介

平岩昭三（ひらいわ あきさぶろう）
 一九二七年、埼玉県に生まれる。
 一九五六年、日本大学大学院芸術学研究科文学芸学専攻修了。
 日本大学芸術学部助教授・教授を経て、
 現在、日本大学名誉教授。
 主要著書「西遊日誌抄」の世界
 ——永井荷風洋行時代の研究（六興出版'83）

注文カード

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文下さい。

帖合・貴店名

注文数

冊

不二出版

平岩昭三 著

検証 藤村操 華嚴の滝投身自殺事件

定価●本体一、八〇〇円＋税

ISBN4-8350-1523-1 C0091 ¥1800E

お名前

お電話番号

注文 年 月 日